

新社長 羽田雅一に聞く ～ものづくりデジタルイノベーション(製造業のDX)とビジネスエンジニアリングの真価～



ご経歴と抱負について、お聞かせください。

今年の4月1日に取締役社長に就任いたしました羽田雅一（はねだ・まさかず）でございます。前社長の大澤の後を継ぎ、全力で経営に取り組んでまいりますので、皆様、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

私は、製造業向けのシステム開発に携わるプログラマー、システムエンジニアとして社会人のキャリアをスタートさせました。その後、お客様に導入したシステムをベースに1996年に「mcframe（エムシーフレーム）」を企画・開発し、以降、同製品の営業と導入を手掛けてまいりました。この間、mcframeは国内のみならずグローバルにも展開し今やB-EN-Gの大きな柱の1つに成長しました。最近で

は「ものづくりデジタルイノベーション」と称した製造業向けのデジタル変革をメインテーマに、B-EN-Gの全事業領域における技術面およびマーケティング面の責任者として活動してまいりました。これらの経験を活かし、引き続き当社事業の発展に全力を尽くしてまいります。

今後、特に力を入れて取り組みたい領域や分野について、お聞かせください。

ITは今や、あらゆる企業にとって必要不可欠なものとなっています。単なる業務効率化の道具から、新しいビジネスを創出するためのプラットフォームへと変貌しています。業務で扱う数字情報だけを対象にしていた時代から、従来は利用されていなかった情報や、コンピュータで扱えると思われていなかった情報をもデータ化し、最大限に活用して競争力を高めようという動きがIoTやAIというキーワードに代表される取り組みです。B-EN-Gはこれを製造業向けのビジネス変革で実現していきたいと考えています。

新型コロナ後には、サプライチェーンの再構築が製造業にとっての必須のテーマとなると言われていますがその際にはデジタル化が欠かせません。この領域はB-EN-Gが得意としている分野であり、成長市場として期待していますが、新しい技術を活用したチャレンジでもあります。「ものづくりデジタルイノベーション」実現のためにしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

株主の皆様メッセージをお願いします。

2019年度の業績は、昨年、一昨年に引き続き、過去最高を更新することができました。これも皆様のご指導、ご鞭撻の賜物であると同時に、企業の情報化ニーズに的確に応えた結果であると考えています。ITベンダーとしての視野を持ちつつも、お客様と同じ目線で考えたソリューションをご提供できたこと、お客様が設定したゴールを共有し、高い生産性を維持しつつシステム導入プロジェクトを推進できたことなどが貢献したと思います。今後も、積極的な姿勢で商品開発、マーケティング、提案活動、プロジェクト遂行に取り組むとともに、お客様やパートナー各社との良好な協力関係の構築、維持に努めてまいりたいと思います。



トピックス

SAPアワード受賞

『SAP AWARD OF EXCELLENCE』（以下、SAPアワード）は、SAPジャパン社が顧客満足度等で優れたパートナー企業やプロジェクト、個人を表彰する制度です。当社も数多くの受賞経験がありますが、2020年のSAPアワードでは、8回目の「プロジェクト・アワード」に加え、当社初の「SAPマイスターIQ」も受賞いたしました。

プロジェクト・アワードは、第一稀元素化学工業株式会社様向けのグローバル販社展開および業務標準化プロジェクトが受賞しました。海外展開に合わせたグループ共通の基盤システムを、最新版の「S/4 HANA Cloud」でクラウド上に構築。各拠点の経営情報をリアルタイムで可視化します。日本初の先進テクノロジー実装を計画通りに実現した点も高く評価されました。

「SAPマイスターIQ」は、お客様や社会に貢献できるイノベーターと評価された個人を表彰するもの。上記プロジェクトの当社中核メンバーが、全受賞者5人の1人に選ばれました。

今回の受賞は、お客様への真摯な姿勢や新技術への取り組み等が評価されたものと自負しています。今後も技術力、プロジェクト遂行力、顧客満足度の向上に努めてまいります。



連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

資産の部	第41期	第40期
	2020年3月31日現在	2019年3月31日現在
流動資産	6,168,530	5,460,335
現金及び預金	2,159,577	1,261,244
受取手形及び売掛金	3,233,222	3,011,302
仕掛品	288,986	729,711
その他	486,744	458,077
固定資産	2,425,006	2,639,767
有形固定資産	142,626	139,674
建物	63,167	68,291
工具、器具及び備品	79,458	71,382
無形固定資産	1,228,288	1,340,919
ソフトウェア	1,225,005	1,338,007
その他	3,282	2,911
投資その他の資産	1,054,092	1,159,173
投資有価証券	264,395	326,432
敷金	345,965	332,301
繰延税金資産	303,700	329,004
その他	145,530	176,935
貸倒引当金	△5,499	△5,499
資産合計	8,593,537	8,100,103

連結損益計算書

	第41期	第40期
	自2019年4月1日 至2020年3月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高	17,728,434	15,253,378
売上原価	12,511,313	10,531,474
売上総利益	5,217,121	4,721,903
販売費及び一般管理費	3,643,720	3,512,986
営業利益	1,573,400	1,208,917
営業外収益	8,218	2,294
営業外費用	3,790	9,204
経常利益	1,577,828	1,202,007
特別損失	181,217	254
税金等調整前当期純利益	1,396,610	1,201,752
法人税、住民税及び事業税	554,280	436,088
法人税等調整額	△10,862	△39,106
当期純利益	853,192	804,769
親会社株主に帰属する当期純利益	853,192	804,769

連結キャッシュ・フロー計算書

	第41期	第40期
	自2019年4月1日 至2020年3月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,088,481	2,157,489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△773,244	△1,065,471
財務活動によるキャッシュ・フロー	△416,272	△556,535
現金及び現金同等物に係る換算差額	△631	△1,801
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	898,332	533,680
現金及び現金同等物の期首残高	1,261,244	727,563
現金及び現金同等物の期末残高	2,159,577	1,261,244

(単位：千円)

負債の部	第41期	第40期
	2020年3月31日現在	2019年3月31日現在
流動負債	3,560,317	3,623,122
支払手形及び買掛金	550,956	543,343
短期借入金	100,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	7,910	—
未払費用	663,716	504,119
未払法人税等	373,805	375,340
前受金	709,753	849,036
賞与引当金	679,520	619,050
役員賞与引当金	35,000	45,000
品質保証引当金	17,145	19,915
受注損失引当金	—	14,025
その他	422,509	453,292
固定負債	—	104,090
長期借入金	—	104,090
負債合計	3,560,317	3,727,213
純資産の部		
株主資本	5,057,269	4,424,960
資本金	697,600	697,600
資本剰余金	448,901	448,901
利益剰余金	4,096,154	3,532,812
自己株式	△185,386	△254,354
その他の包括利益累計額	△24,050	△52,070
その他有価証券評価差額金	△19,717	△48,369
為替換算調整勘定	△4,332	△3,701
純資産合計	5,033,219	4,372,890
負債純資産合計	8,593,537	8,100,103

資産の部

流動資産につきましては、現金及び預金の増加、仕掛品の減少等により、前期末と比較して708百万円増加し、6,168百万円となりました。なお、当期末の総資産に占める流動資産の比率は71.8%であります。

また、固定資産につきましては、無形固定資産の減価償却額が無形固定資産の取得を上回ったこと、投資有価証券評価損等による投資その他の資産の減少等により、前期末と比較して214百万円減少し、2,425百万円となりました。

これらの結果、資産の部の当期末残高は、前期末と比較して493百万円増加し、8,593百万円となりました。

負債の部

負債の部の当期末残高は、未払費用の増加、前受金の減少、短期借入金の減少等により、前期末と比較して166百万円減少し、3,560百万円となりました。

純資産の部

純資産の部の当期末残高は、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことによる増加、剰余金の配当による減少、従業員持株会信託による自己株式の処分による増加等により、前期末と比較して660百万円増加し、5,033百万円となりました。

以上の結果、当期末の自己資本比率は、前期末と比較して4.6ポイント増加し、58.6%となりました。

会社概要 / 株式の状況

(2020年3月31日現在)

会社概要 2020年6月19日現在

社名	ビジネスエンジニアリング株式会社
事業開始	1999年4月(設立 1980年12月)
資本金	697,600,000円
従業員数	連結618名 単体465名(2020年3月31日現在)
業務内容	企業経営および情報通信システムのコンサルティング コンピュータネットワークの企画および開発 情報通信システムの企画、開発、販売およびリース
本社	東京都千代田区大手町1丁目8番1号 KDDI大手町ビル
関西支店	大阪府大阪市淀川区西中島6丁目1番1号 新大阪プライムタワー4階
中部営業所	愛知県名古屋市中区錦3丁目4番6号 桜通大津第一生命ビル12階
茅場町オフィス	東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル2階
グループ会社	ビジネスシステムサービス株式会社 Business Engineering America, Inc. 畢恩吉商務情報系统工程(上海)有限公司 Toyo Business Engineering (Thailand) Co., Ltd. PT. Toyo Business Engineering Indonesia Toyo Business Engineering Singapore Pte. Ltd.

役員 2020年6月19日現在

取締役 会長	大澤 正典
代表取締役 取締役社長	羽田 雅一
代表取締役 取締役副社長	片山 博
常務取締役	別納 成明
取締役 役	古田 英樹
取締役 役	中野 敦士
取締役 役	佐藤 雄祐
社外取締役 役	清水 弘
社外取締役 役	樋口 英雄
社外取締役 監査等委員	丸山 龍二
社外取締役 監査等委員	志水 直樹
取締役 常勤監査等委員	大塚 博文

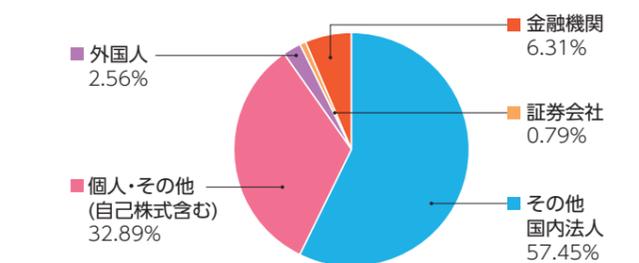
株式の状況

発行可能株式総数	24,000,000株
発行済株式の総数	6,000,000株
株主数	7,403名

大株主

	所有株式数(株)	所有比率(%)
株式会社図研	1,140,000	19.00
三谷産業株式会社	744,000	12.40
ウイングアーク1st株式会社	480,000	8.00
株式会社インテック	360,000	6.00
キャノンITソリューションズ株式会社	360,000	6.00
株式会社テクノスジャパン	180,000	3.00
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	114,800	1.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	109,100	1.81
B-EN-G社員持株会	105,400	1.75
自社(自己株口)	84,690	1.41

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〔郵便物送付先・電話照会先〕 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告 https://www.b-en-g.co.jp/